

『論語』

——君子と小人を対比した記述

君子は周して比せず、小人は比して周せず。（為政）

君子は広く公平に親しんで交わり、一部の人におもねることはないが、小人は片寄ったおもねり方をし、広く公平に親しまない。

たひら

たうたう

とこしな

君子は坦たひらかに蕩蕩たうたうたり。小人は長とこしなへに戚戚しんしんたり。（述而）

君子は心が平静でのびのびしているが、小人は永久に心の憂いが去らない。

君子は上達す。小人は下達す。（憲問）

君子は向上して高明な域に達するが、小人は下落してとどまることがない。

さんあ

たいじん

君子に三畏さんああり。天命を畏れ、大人たいじんを畏れ、聖人の言を畏る。小人は天命を知らずして畏れざるなり。大人なに狎なれ、

聖人の言を侮る。（季氏）

君子には三つの畏れがある。天命を畏れ、大人〔有徳の先輩・高位の賢人〕を畏れ、聖人の言葉を畏れる。小人は天命を知らないで畏れないのである。大人になれなれしくし、聖人の言葉をばかにする。